

I 「学校の教育目標」および「学校の教育目標を達成するための基本方針」

1 学校の教育目標

現代は、ビッグデータ、5G、AI等の技術による第四次産業革命のSociety 5.0超スマート社会の到来や、グローバル化および少子高齢化が進むことなどにより、変化の激しい予測困難な時代を迎えている。

子供たちは、このような多様性の時代・不確実性の時代を「人生100年」として、本校の卒業後も80年以上にわたって活躍しなければならない。卒業後、6年を経ると選挙権も行使できるようになる。自立し、心身ともに健康で、社会と適切に関わりながら、持続可能な社会の担い手として幸福の追求を行うことができる「生きる力」を子供たちに育んでいかななくてはならない。

学習指導要領に示された資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）を意識し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することで、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を着実に育成していく。また一人1台のタブレットの整備など、大きく一歩を踏み出した「GIGAスクール構想」を着実に推進することで、学習を支える文房具の一部として使いこなす力を育んでいく。

本校の子供たちは、明るく素直で、純朴である。学校に協力を惜しまない方々がいる保護者・地域の特性も生かしながら、教職員が力を合わせて全力で教育活動に取り組むことにより、「練馬区教育・子育て大綱」で示された「教育の質の向上」「家庭や地域と連携した教育の推進」「支援が必要な子どもたちへの取組の充実」や「第2次 みどりの風吹くまちビジョン基本計画」で示された「子どもたちの笑顔輝くまち」を実現させ、学校教育目標の具現化を図る。

心ゆたかな子ども

- よく考える子ども ○ 力を合わせる子ども ○ 健康で明るい子ども

《共有したい目指す子供の姿のイメージ》

◎心ゆたかな子ども

○よく考える子ども（知）＝確かな学力

- ◇ “教えてもらうことが上手な子”ではなく、“学ぶことが上手な子”に
- ◇ 「学びの種」を育てられる子に ※子供たちの“学びとり、発展させる”という意識を高める。

○力を合わせる子ども（徳）＝豊かな心

- ◇ だれにでも敬意をもって接し、自分もほかの人も大切にできる子に
- ◇ “とても大切なこと”が“とても大切”とわかる子に
- ◇ 「入れて（仲間になろう。）」「やめて（その接し方は不快です。）」、「助けて（今ピンチです。）」などの言葉を使って人間関係の調節ができる子に

※「助けてあげようか？」と言われた時に、素直に「うん。」と言えることも自立の大切な要件

- ◇ 時には、孤独に耐える心の強さが必要な場合も（スマホ中毒など）

○健康で明るい子ども（体）＝心身の健康

- ◇ 汗を流す楽しさを知る子に
- ◇ 転ばぬ先の杖をたくさんもつ子ではなく、転んでも転んでも立ち上がれる子に
- ◇ がまんすることや、最後までやりぬくことができる強い心をもつ子に

《児童へのアプローチのヒント》

◎1日1回、大きな声を出す。1日1回、最大限に心拍数を上げる。（あいさつ、歌、音読、踊り、ゲーム等）

2 学校の教育目標を達成するための基本方針

(1) 学校は、地域と共に子供たちのためにある。

- ・「居場所」がある安心できる学校としての機能の充実（個別の手だて、交流活動、相談体制の充実）
- ・「活躍の場面」がある楽しい学校としての機能の充実（個に応じた意図的な活躍の場面の設定）
- ・家庭学習や放課後補習教室等の充実による、基礎的・基本的な学力の定着・向上

(2) すべての教職員で、すべての子供たちを育成する。

- ・6年間の系統性を生かした指導の充実
- ・通常の学級の教員、特別支援学級の教員、特別支援教室の教員、専科教員などが連携して推進するカリキュラム・マネジメント
- ・言語環境やユニバーサルデザインを意識した環境整備と教材・教具の工夫

(3) 「今」そして「未来」で活躍できる力を育成する。

- ・タブレット端末、デジタル教科書等の活用によるICT教育の充実
- ・言語活動および読書活動の活性化
- ・体力向上プロジェクトの推進（いつでも優しい気持ちで、笑顔でいられるように。）

(4) 「生きる力」につながる確かな「自己肯定感」を育成する。

- ・「ありがとう体験」（友達や大人から感謝される場面）の充実
- ・キャリア・パスポートや学習の記録の充実による自己評価力の向上（見通す・振り返る）
- ・「学園小ビクトリーロード」を活用した、顕彰活動の活性化

II 研究等

- 1 令和3年度「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」に関する参加校（国語）
- 2 校内研究 自分の思いや考えをもち、表現する子供の育成
～「読むこと」を中心とした主体的・対話的で深い学びを実現する指導法の工夫～

◎ 新型コロナウイルス感染症対策により、年間の見通しがもてなかったり、これまで行っていた教育活動に制限がかかっている状況ですが、「今できること」、「今しかできないこと」を大切にして、保護者の皆様と連携をしながら一歩ずつ教育活動を進めてまいります。

今年度も、本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。